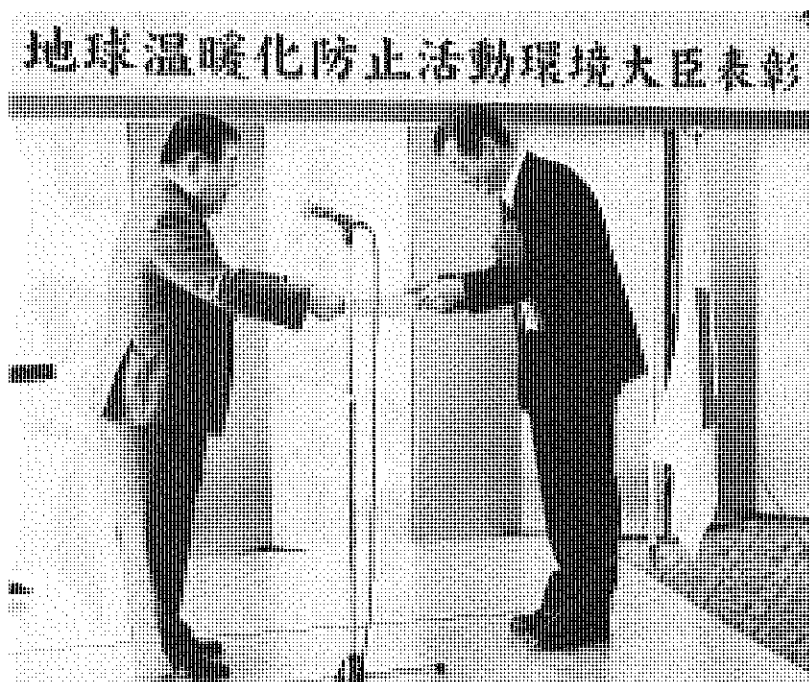


あおぞら財団 年次報告書

Vol.10

2006.4~2007.3



(写真 環境大臣表彰)

もくじ

2006年度事業の概要	2
地域づくり 地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム開催	4
資料保存 エコミュージアム 開館して1年	5
環境学習 フードマイレージ教材ができました!	6
環境保健 ぜんそく患者のリハビリプログラムを実践	7
寄附・寄贈者	8
財政状況	8
役員・職員	8

2007年9月

財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階
TEL: 06-6475-8885 FAX: 06-6478-5885
URL: <http://www.aozora.or.jp/>
E-Mail: webmaster@aozora.or.jp



2006年度事業をふりかえって

■方針

2006年度は、従来から積み上げてきた各分野の事業や取り組みの前進を前提にしながら、何よりも、財団設立の目的である住民、市民とともに公害地域、とりわけ西淀川地域の再生に向けて一層の具体的な努力が求められていると認識し、その上にとって、財団活動の現状としては、エコドライブ推進事業など、10年間の活動の中で地域との継続的な繋がりができつつあり、再生に向けての地域の課題や資源が見え始めているという段階であるとした。

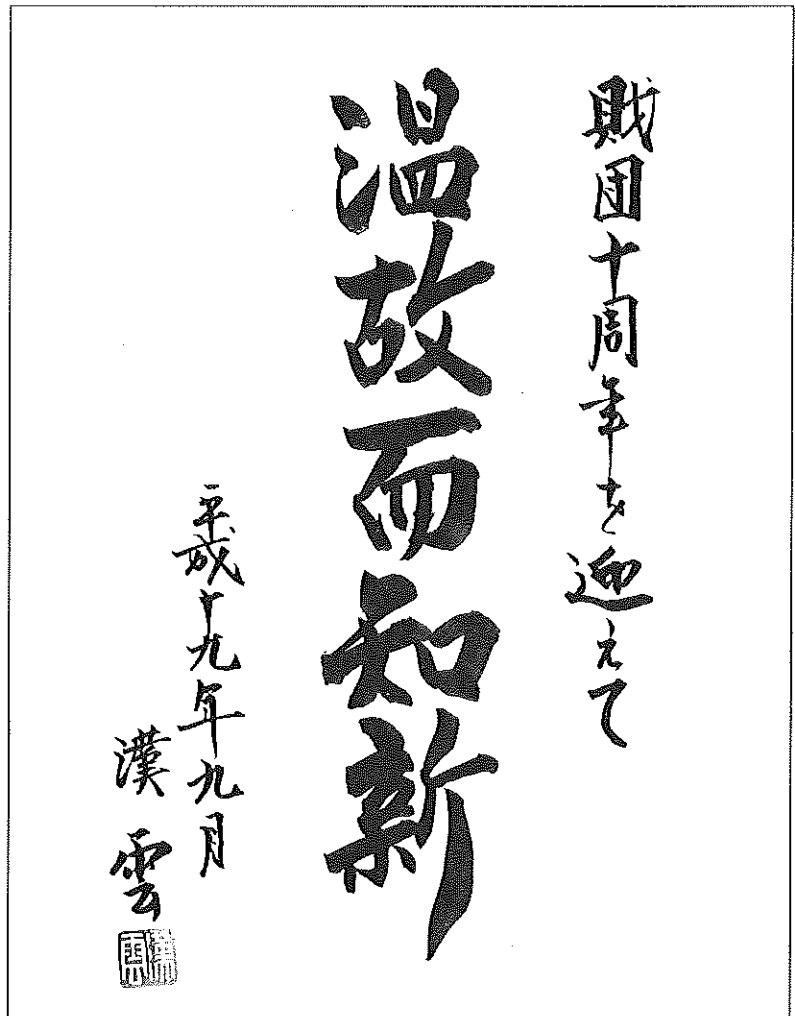
全体的な基本方針としては、植田和弘理事主宰の「西淀川地域再生研究会」などの研究会と連携し、その成果を吸収しながら、何よりも具体的なテーマに基づき、地域との協働を積み上げる中で、知恵を出し合い本格的に地域の環境再生に向けた活動を全力で行って行くことを掲げた。

また、個別事業においては、エコドライブ推進事業をはじめとした「地域交通マネジメントセンター構想」の実現に向けた取り組みや、新たな道路交通政策提言の作成、高齢公害患者を対象としたリハビリテーションプログラムの開発に向けたモデル事業の検討や試行的実施、公害関連資料の収集保存の全国ネットワークづくりと地域資料館としての取り組み、環境学習教材を普及するプログラムづくり、市民参加によるまちづくりをテーマとしたシンポジウムの開催などを行った。こうした取り組みの中でも、地域との連携づくりを意識的に追求していく方針を掲げた。

さらに、財団のパワーアップも不可欠の課題であるとして、財団を物心両面から支えるサポーター（賛助会員）制度と、事業活動を協働して取り組むボランティア・スタッフ制度の確立など、組織・運営体制に係る制度の整備・充実を積極的に進めると同時に、職員の能力アップを図りながら、積極的な業務遂行に努め、市民・住民とともに歩む自立した財団をめざしていくことを基本方針とした。

■総括

2006年度は、引き続き大阪府トラック協会河北支部等と共同して、エコドライブによる環境負荷低減等の実証研究を継続し、その普及に力を入れた。こうした活動が認められ、12月には、エコドライブ普及事業研究会（座長新田保次理事）が環境大臣賞を受賞した（表紙写真）。また、道路検討会では、今年3月、数年間の検討の成果を、西淀川道路環境再生プランの提言PART6「西淀川発！これからの交通まちづくり～低速交通のすすめ～」として発表した。



漢雲は森脇君雄理事長の筆号です。

財団の研究員が西淀川区地域福祉アクションプランづくりに積極的に参加し、その作成に大きく貢献した。

昨年度からスタートした植田和弘理事主宰の「西淀川地域再生研究会」は、2006年度は8回の研究会を持ち、西淀川の地域再生に向けた基礎的な研究と討論を積み重ねた。3月17日には、その成果を踏まえて「地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム」を開催した。

公害患者らのリハビリや生きがいづくりの事業としては、西淀川公害患者と家族の会が、2006年10月にデイサービス施設（通所介護施設）「あおぞら苑」を開所した。施設立ち上げに際して、財団の行った公害患者らの生活実態調査やニーズ調査などの研究成果が活用された。財団は、設立にあたっての準備活動や、開所後、あおぞら苑を活用したリハビリプログラムや講座を開催するなど、「あおぞら苑」活動を広く周知する活動に対し、積極的に協力を行った。

「西淀川・公害と環境資料館（愛称エコミューズ）」も、2006年3月のオープン以来、同年12月末現在で利用者が400名を越えるなど、全国的にも数少ない公害環境資料館として一定の活用が行われるようになった。

いうまでもなく、財団は、環境と地域の再生に関連する調査・研究、提言を行うとともに、住民、市民とともに、西淀川地域を人と環境に優しい地域に再生させていくこと（地域再生）を目指したNPOであり、西淀川地域の再生とは、公害で疲弊した街を働き住み続けたい街に再生していく取り組みである。そのためには、地域環境、土地利用、地域資源などの把握や地域再生プランの作成、再生を担う主体の成長と協働が不可欠であり、なによりも自治体など行政とのパートナーシップを重視する必要がある。

上記のように、財団の研究員が地元住民とともに初めてその作成に参加した西淀川区地域福祉アクションプランづくりや、エコドライブ推進事業における地元事業所等との継続的な繋がり、「参加型まちづくりシンポジウム」への取り組み、エコミューズの開設等は、今後の地域再生の活動に大いに役立つ取り組みとなった。

■事業内容

〈重視する事業〉

■「西淀川地域再生研究会」と連携した地域資源活用の具体的取り組み

昨年度に引き続き、西淀川地域再生研究会では、西淀川地域をモデルとした持続可能なまちづくりをテーマに検討を進めた。その中で「参加型まちづくり」について討議を重ね、成果として「地域からすすめる『参加型』まちづくり」シンポジウムの開催に結実させた。

■あおぞら財団附属 西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）の発展

2006年3月18日にオープンした資料館（エコミューズ）は、小田康徳・大阪電気通信大学教授を館長に迎え、運営がスタートした。2006年度の1年間で500人弱の来館者があり、これまでとは違った広がりを見せている。初年度ということもあり、新しくロゴマークやリーフレットを作るなど、親しみやすい資料館をアピールできるように工夫を重ねた。

整備資料収集の点では、大阪から公害をなくす会や谷千恵子弁護士から多くの資料が寄せられ、所蔵資料の充実がはかられた。今後はインターンやボランティアの力を借りながら、資料整理を着実に進めていきたい。

■市民向け環境セミナー開催と収益事業としての発展

公害で疲弊した地域の環境再生・まちづくりを進めるにあたっては、まちに住み暮らす市民が主体として「持続可能な都市・地域づくり」に参加する過程の中で、まちづくりのあり方が議論されることにより共通認識が生まれ、まちのあり方が具体化されると考える。

まずは、持続可能なまち・大阪をつくる第1歩として、すでにまちづくりを実践している人、これから実践しようとし

ている人など、様々な思いの人が一堂に会して、学び、経験を交流するとともに、まちづくりの理念と方向性について総合的に討論する機会として、「地域からすすめる『参加型』まちづくり」をテーマとしたシンポジウムを、大阪府商工会館において、大阪府域をはじめ、各地域から154名の参加を得て開催した。

特別講演を大久保昌一・大阪大学名誉教授に、コーディネーターを植田和弘理事、コメンテーターを、塩崎賢明理事、新田保次理事、大久保規子・大阪大学大学院法学研究科教授に、まちづくりの実践経験に関して5名に発言を依頼し、フロアからの質疑や意見を交えながら、「まちづくりタウンミーティング」をおこない、議論を深めた（後援：大阪市、大阪府、環境省近畿地方環境事務所、国土交通省近畿地方整備局、日本環境会議）。また、本シンポジウムは、若手研究者やボランティア等が企画を検討し、準備・運営を行なった。

収益事業という点では、本事業によって収益を得るという結果には至らなかった。しかし、「環境再生・まちづくり」事業は財団設立の出発点として重要であることから、今後、この経験を踏まえて、「参加型まちづくり」をより具体的に実現し、系統的な取り組みとして周知を図るためには、経営的な側面も考慮しつつ、今回のシンポジウムの記録を冊子化したり、継続してシンポジウムを実施することなどにより、得られた知見等をより広く共有し、議論を深めていくことが重要である。

■財団職員的能力アップと知識の蓄積

公害環境問題やまちづくり、地域再生の課題や社会時事等について、各職員が、事前に設定したテーマに基づき、情報収集を行なうとともに、プレゼンテーションを行い、情報を共有・蓄積し、情勢的な討議を行なう機会として、2006年10月より、月1回、拡大事務局会議等の時間を活用して、定期的に職員研修を実施した（計6回）。

研修内容を事業計画や企画・政策等の立案に反映することにより、新規事業の展開を図り、事業費の獲得とともに、財団職員としての質的技量の向上を目指した。

今後も引き続き継続するとともに、外部講師の招聘など、財団事業の発展的展開や、外部研究者や環境再生に取り組む活動や人的ネットワークの形成に活かす取り組みが必要である。

〈個別事業〉

■公害のない住みよい地域づくりを進める活動（地域づくり）

■資料館の運営とネットワークづくり（資料館）

■公害の経験や地域の歴史を活かした環境学習（環境学習）

■公害病患者等の健康回復や生きがいづくりを進める活動（環境保健）

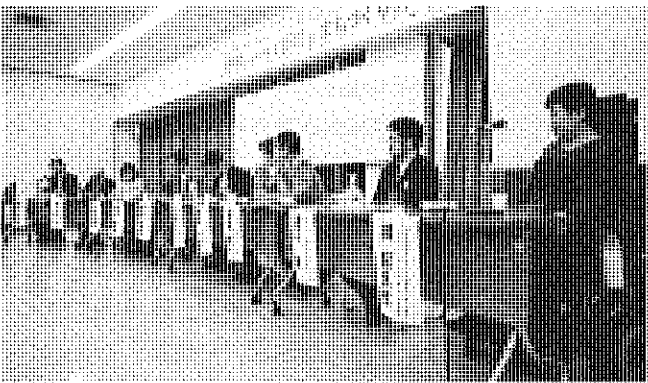
あおぞら財団設立10周年記念

地域からすすめる 参加型まちづくりシンポジウム 開催

環境再生や地域づくりのキーワードは「住民と行政との協働」「市民参加」と言いますが、言うが易く行いが難し。あおぞら財団の活動も、悪戦苦闘の毎日です。ならば、みんなで経験を交流し「参加」の方法を模索しようと、実際にまちづくりに取り組む人や専門家らに呼びかけて、「地域からすすめる参加型まちづくりシンポジウム（3/17土、大阪府商工会館、参加者154名）」を開催しました。財団設立10周年企画の取組みとして、若い研究者やボランティアの方々に企画・立案をお願いしました。

第1部、大久保昌一・大阪大学名誉教授による「特別講演：持続可能な都市のあり方—なぜ参加型まちづくりが必要か—」の話を受けて、第2部では「わたしのおおさか、こんなまちにしたい！大放談会」を開催しました。新京橋商店街や地域資源を活かした上町台地の取組み、車椅子利用者からの提案、行政と市民の橋渡し役のコンサルタント、あおぞら財団の交通まちづくりの取組み等、5名の現場の声から議論がスタート。会場参加者からもたくさんの意見が寄せられました。それに対して4名の専門家の方々にコメントを頂きました。

個人が声を出すことで議論が生じ課題や解決の方法が見えてくる、皆の意見として共有される。「参加型」の意義や成果、今回のシンポジウムを通じ確認できました。これを踏まえて、今後さらに議論を深める場をつくりたいと考えています。



第二部、大放談会の様子

キーワードは「低速交通」と「地域発」 道路提言Part6(素案)発表

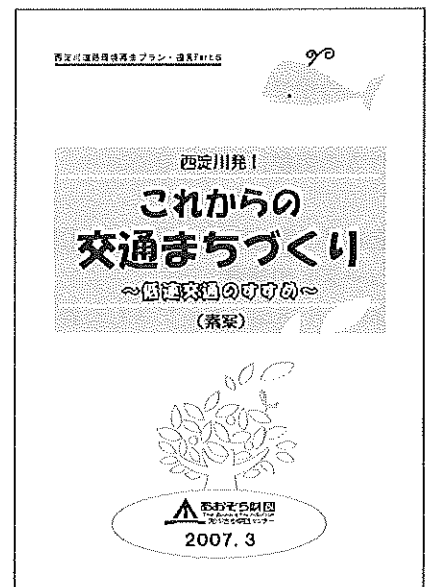
西淀川公害訴訟原告団の依頼により、専門家や住民運動関係者などから構成された「西淀川道路環境対策検討会」での議論の下、「西淀川道路環境再生プランPart6 西淀川発！これからの交通まちづくり～低速交通のすすめ～（通称：道路提言Part6）」を発表しました（07年3月）。

便利さ快適さと引換えに大気汚染公害などの多くの問題を抱えるクルマ依存社会。その解決の視点として、現代社会が追い求めてきた「高速交通」とは対極の、徒歩や自転車、公共交通など私たちの生活と身近な「低速交通」を重視すること、そして「地域発」交通まちづくりをすすめていくことを提案しています。またそのことは、人々がふれあい、新たな文化が生み出される地域づくりにも繋がります。

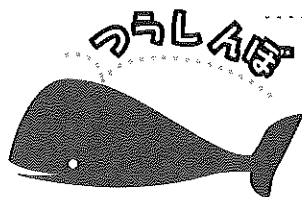
本提言では、はじめに西淀川区の住民「あおぞら一家」の、道路や環境等に関する素朴な疑問を出発点とし、「第I部クルマ依存者会の心配ごと」で、現在の自動車と大気環境に関する現状と課題をまとめています。「第II部 これからの交通まちづくりへ」では、「政策」「計画」「参加」「教育」「財源」「法律」というテーマにわけて現状を整理し、展望を述べています。

多くの人に読んで頂き、ご指摘ご批判を頂いて、さらによりよい提言にしたいと考えて「素案」としています。

皆様の御意見をお待ちしています。
(小平 智子)



定価500円にて販売中



年度末の忙しい時に、人が来るのかな…？という心配は、会場の熱気が吹き飛ばしてくれました。理論的な講義から実践的な話まで盛りだくさんの内容でしたが、参加者には何かを持ち帰ってもらえたのではないのでしょうか。このような場を渴望していた人は少なかつたと思います。

「参加型まちづくり」が絵に描いた餅にならないためには、いろいろな参加の場ができることはもちろん、参加の「成果」をうみだす戦略が必要です。次は、西淀川であんな場をつくりたいですね。

清水万由子（京都大学大学院）

エコミュージズ 開館して1年

410人の来館者

小田康徳・大阪電気通信大学教授を館長に迎え、2006年3月18日におおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館（愛称：エコミュージズ）がオープンしました。月曜日と金曜日の週2日のみの開館ですが、2006年度は410人の来館者がありました。西淀川公害を学ぼう、地域再生の現場を見ようと、多くの方が見学や研修でエコミュージズを利用しています。

■研修や見学で受け入れたおもな団体

（財）淀川勤労者厚生協会新人研修／「サロンにしよど 4月の出会い」の見学／タイ環境NGOメンバー／アジアのグラフィックデザイン展参加デザイナー／大阪市立文の里中学校フィールドワーク／立命館大学民科法律学生／韓国司法修習生／大阪民主医療機関連絡会9月度医学生企画フィールドワーク学習会／西淀川区社会科研究会／JICA集団研修「大気汚染対策Ⅱ」コース／平成18年度環境省職員環境問題史現地調査／大阪市・大田市NO₂簡易測定市民共同調査、韓国大田忠南グリーンコリア訪問団との交流活動／大阪大学工学部地球総合工学科土木工学科目2年生／徳島市ecoリーダー会／金沢大学留学生グループ／民医連の医療と研修を考える医学生をつどい／

資料の収集と保存

～ビデオライブラリー完成／資料の電子化に着手～

「大阪から公害をなくす会」および谷千恵子弁護士から多くの資料が寄贈されました。資料整理に関しては、これまでたくさんのビデオやDVDを所蔵していましたが、整理ができていませんでした。そこで2006年度は映像資料のデータベース化、DVDへのダビングを中心におこない、ビデオライブラリーをオープンしました。西淀川公害に関するオリジナル制作ビデオ、報道録画映像、語り部映像、昔の西淀川の風景、教材ビデオなど多彩に取り揃えています。VHSテープが157本、DVDが144枚あります。

さらに、資料を永く保存し、将来的にはインターネット等で広く情報発信に利用しようと資料の電子化業務に取り組みました（独立行政法人環境再生保全機構受託業務）。西淀川公害患者と家族の会が発行している機関紙や同会の総会議案

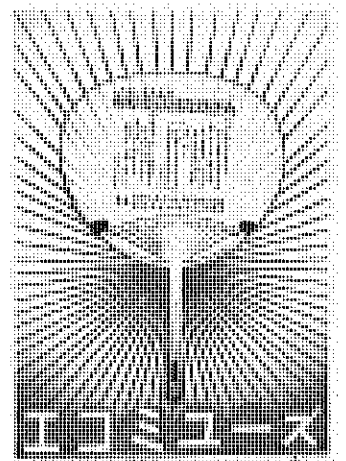
書、写真、裁判記録などを対象に、約2万コマの撮影をおこないました。

広く発信していこう

～展示、ポスター、リーフレット～

おおぞら財団、エコミュージズのことを広く知らせようと、環境経済世界大会（7月4日～7日）、西淀川図書館展示（9月1日～10月31日）、きんき環境館秋の展示会（10月3日～13日）、地球温暖化防止！ OSAKAアクション2006（12月10日）にそれぞれ出展しました。

アジアのグラフィックデザイン展の出品作品として、エコミュージズがテーマに取り上げられ、香港、台湾、大阪在住のデザイナーによるポスターが3種類できあがりしました（デザイン展：2006年9月30日～10月15日）。また、開館1周年を記念して、ロゴマークと紹介リーフレットを作成しました。



香港のデザイナーが製作したポスター

地域から学ぼう

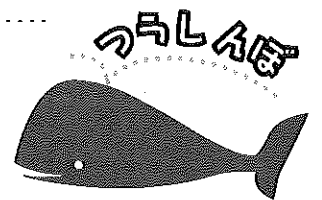
エコミュージズの所蔵資料を活用しながら西淀川の地域研究を進めていこうと、西淀川地域研究会を2ヶ月に1回開催しました。また、開館1周年を記念して「みんなで歩こう 西淀川の歴史めぐり」を開催し（3月25日）、ウォーキングマップ片手にあらためての地域の歴史をみなで見つめ、話し合うことができました。

歩き出したばかりのエコミュージズ。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

（鎗山善理子）

昭和初期の西淀川の様子を撮影した映像を所蔵していたので、西淀川区役所に持って行き、そこで財団を紹介してもらったのが最初です。たしか財団が設立されて間もない頃だと思えます。はじめは、公害や環境のことだけを扱っているのなら、こうした地域の歴史映像は少し分野が違うのかなと思いましたが、よく話を聞いてみると、地域の歴史についても資料を集めているとのこと。以来、協力させてもらうようになりました。私にできるのは、昔話をするぐらいのことです。おおぞら財団の資料館に行けば、「西淀川のことなら歴史や自然のことなど、何でもわかる」というようになればうれしく思います。（談）

溝口重夫（大阪府池田市在住・エコミュージズ資料提供者）



食と交通と環境を学ぶフードマイレージ買物ゲームが完成

～道路環境市民塾から生まれた教材～

「フードマイレージ」を知っていますか？

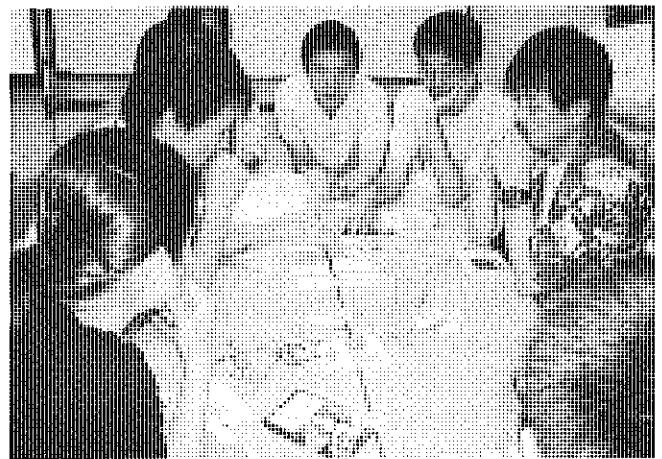
食糧輸送にかかる環境負荷を表す概念で、食料の輸送距離×重さで表します。この言葉があおぞら財団で話題になったのは、2003年の道路環境市民塾でした。道路環境市民塾は、ボランティアの運営委員が企画を考える市民向け講座です。「自分の自動車の付き合い方を考える」をテーマにした講座の運営委員を努めたのが松井克行氏（当時：大阪府立西淀川高等学校教諭 現：大阪府立大学三島高等学校教諭）と松村暢彦氏（当時：大阪大学大学院工学研究科助手 現：准教授）でした。自動車との付き合い方を見直すワークショップにフードマイレージを取り入れることができないかと試行錯誤した結果、根本志保子氏の協力もあって大阪市卸売市場のデータから国内のフードマイレージを算出し、買物とフードマイレージをつなげることができました。現在と過去の買物（フードマイレージ）の比較するフードマイレージ買物ゲームの原型が誕生した瞬間です。

2005年6月、西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会（プログラム研）にて、フードマイレージ買物ゲームを教材化しようということになりました。プログラム研のメンバーである、松井氏、松村氏、原田智代氏を中心として「フードマイレージ教材化研究会」を立ち上げ、教材に関心ある方々に声をかけて研究会に参加していただきました。2006年度に「教材カードセット」「産地地図」「使い方ガイド」「資料編」を作成し、学校や地域で活用してもらえる形にすることができました。（林 美帆）

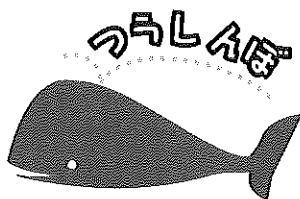
この教材の特徴は、1970年と現在のライフスタイルの比較ができること、買物と環境を結び付けたこと、国内のフードマイレージを算出したことなどがあげられます。

買物という、生活に密着した場面の疑似体験から始める教材は、環境教育だけではなく、食育や国際理解教育、開発教育、ESDという幅広い分野から「使いたい！」というアプローチがあります。一見、公害から遠く思える教材ですが、日常生活の背後に輸送高速道路網の整備という形で「公害」が隠れていることに気づくことができます。「公害教育」を風化させずに新たな切り口から公害が学べるという意味で、あおぞら財団の公害環境学習の新しい一側面を切り開いた教材と自負しております。

みんなの想いを結集して形にすることができました。今後は普及と教材改良に取り組んでいきます。



フードマイレージワークショップ



フードマイレージ買物ゲームは「1970年との比較」と、「公害学習」としての位置づけが重要です。日本にとって1970年は、非常に大きな転換点でした。高度経済成長の影で公害が顕在化した1970年。当時の食生活には「旬」があり、和食中心で、商店街には活気がありました。当時を境に、ファースト・フード店が進出し、「食の欧米化」が促進され、冷凍技術の発展と高速道路網の進展により、日本人は「豊かな食生活」を享受するようになりました。またモータリゼーションの進展により、郊外の大規模商業施設にマイカーで買物に行く「豊かな生活習慣」を身につけました。でも、本当に「豊か」になったといえるのでしょうか？そこに私のこだわりと情熱が込められています。松井克行（大阪府立三島高校教諭）

フードマイレージは老若男女が共通する「食」を通して「環境」や「交通」、「地域」を学ぶ教材です。今回の教材は、食材の輸送だけではなく買い物交通もあわせて考えることができる点がミソです。小学校の社会科教育にも親和性が高く、多くの方々に体験していただける可能性を秘めています。後は、どうという風にすれば興味をもっておられる現場の先生方に知ってもらえるかについて検討と実践を進めていくことが必要になります。

松村暢彦（大阪大学大学院工学研究科准教授）

高齢公害患者を対象としたリハビリテーションプログラムの開発 (環境保健事業)

(1) 呼吸ケアプログラムの検討とパイロット調査の実施

高齢認定患者が実施して継続が可能なプログラムを開発するため、認定疾病、薬剤、禁煙指導、栄養指導、運動療法、急性増悪の予防など、呼吸器に関する情報(LINQ: Lung Information Needs Questionnaire)を提供に取り組みました。

岡山県倉敷市にある、倉敷医療生活協同組合総合病院水島協同病院(院長:里見和彦医師)において、60人の高齢認定患者を対象として、包括的な側面から、患者に呼吸管理指導計画を行なうプログラムに関するフィジビリティスタディを実施しました。

具体的には、60人を対象者とし、介入群と対照群に分け、3ヶ月間の患者指導を、医師、看護師、理学療法士、作業療法士等の協力で実施した(2006年10月~2007年1月)。結果は、呼吸器情報のニーズ(LINQ)や、ADL(日常生活動作)、QOL(生活の質)、6分間歩行や呼吸困難の程度を示すBorgスケールの数値の変化等を取りまとめました。



(2) 千住秀明先生講演会とフィジビリティスタディ事業報告会

2007年3月23日(金)には、千住秀明先生(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授)を迎え、水島地域にて、公害認定患者等一般市民を対象とした講演「息切れを仲良く暮らそう&やってみよう!呼吸リハビリ」(写真・64人参加、於:倉敷市水島公民館)及び医療従事者を対象とした講演会「包括的呼吸ケアプログラムとは何か~その実践に向けて~」(47人参加、於:水島協同病院)合わせて、包括的呼吸管理指導フィジビリティスタディの中間報告会を行いました(30人参加、於:水島協同病院)。

(3) 日常生活において実施するリハビリプログラムの検討

公害認定患者の日常生活において、生活上、必要な家事や活動等の行動や外出等が不活発にならないように、公害病等の急性増悪時の対応、日常生活動作(ADL)の改善を行い、公害患者の療養生活の質(QOL)が向上できるリハビリテーションプログラム(「活動」向上プログラム)の検討を進めるため、西淀川公害患者と家族の会の協力を得て、生活機能の向上に関する講演会(講師:大川弥生先生)を行いました。グループ懇談会では、プログラムの主体である患者の立場から、インタビューやグループで、お互いに意見交換をしました。(表1) (矢羽田薫)

事業に参加した患者さんの感想

■ずっと続けることが大切

今回、3ヶ月間継続して、呼吸リハビリのための運動をしました。すごく良くなったという実感はないですが、この3ヶ月間は歩くということ意識していて、積極的に歩いていたので、全体的に体が軽くなったような気がします。ずっと続けて行くことが大事だなと思いました。(女性)

■腹式呼吸を実践しています

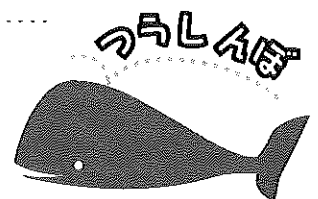
千住先生のお話はとてもわかりやすくよかったです。特に、いままでよくわからなかった腹式呼吸を実技で教わることができたのは、本当によかったです。いまでは、プールに行ったときに、教わったことを実践して、腹式呼吸を意識して歩いています。(女性)

表1

回数	日時	参加者	テーマ
第1回	2月19日(月)	26人	・生活不活発病 ・廃用症候群
第2回	2月26日(月)	19人	・介護保険制度の改正 ・主治医意見書 ・生活不活発病チェックリスト
第3回	3月5日(月)	20人	・生活機能の低下 ・医師・保健師等への意見・希望
第4回	3月30日(金)	23人	・既存に発行されているパンフレットで「分かったこと」、「分からなかったこと」、「理解できたこと」、「役に立ちそうなこと」、「自宅でできそうなこと」に関する内容と理由 ・パンフレット等をコミュニケーションツールとしてどう活用するか

気管支喘息や慢性気管支炎・肺気腫の患者さんにご協力をいただき、公害医療機関の外来で実践できる簡易な呼吸ケアプログラムを作成し検証しました。結果は、今回のプログラムの限界を教えられた面もありましたが、それ以上に数多くの貴重な知見を得ました。また、患者さんや若い職員が共に研究する楽しさを体験し、一所懸命に取り組んでいただけた患者さんの熱意にも触れました。学習や検討を重ね、もっといいプログラムをつくっていきたいと思っています。

倉敷医療生活協同組合 総合病院水島協同病院 院長 里見和彦(呼吸器科医師)



2006年度寄附・寄贈者(敬称略)

天野憲一郎 神長唯 西村弘
 井奥圭介 亀岡哲也 新田保次
 井関和彦 川崎美榮子 馬場明男
 井上有一 北泊謙太郎 早川光俊
 入江智恵子 国田裕子 林宏
 上田幹枝 黒岩晴子 林福子
 植田和弘 小林光 福本富男
 宇都宮千穂 小松義久 藤岡太造
 遠洲尋美 小山勝己 松井克行
 遠地昭典 庄谷邦幸 三宅宏司
 遠藤宏一 兒山真也 宮崎悦子
 大久保規子 是枝洋 村松昭夫
 大久保昌一 酒井健一 松村暢彦
 逢坂隆子 佐無田光 森五宏
 太田映知 澤井余志郎 八木一夫
 太田周作 塩貝隆夫 山川昭次
 岡本英晃 芝村篤樹 山田喜美子
 尾崎寛直 杉山弥生 除本理史
 小田康徳 曾我部行子 吉田誠宏
 小田周治 津下佳世 吉村良一
 織原泰 中島晃 米田憲司
 香川雄一 中村昌史
 柏原純夫 西口勲
 尼崎公害患者・家族の会
 尼崎南部再生研究室
 大阪から公害をなくす会
 大阪人権博物館
 川崎まちづくり研究所
 独立行政法人環境再生保全機構
 熊本中央法律事務所
 交通エコロジー・モビリティ財団
 (株)神戸製鋼所
 神戸大学文学部地域連携センター
 国文学研究資料館
 市民運動資料研究会
 (株)ジョイックス
 新横田基地公害訴訟団・同弁護団
 敦賀短期大学地域交流センター
 全国公害患者の会連合会
 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
 電力労働運動近畿センター
 徳島市ecoリーダー有志
 なにわ保健生活協同組合
 西淀川公害患者と家族の会
 (財)日本野鳥の会
 浜一事務機器販売(株)
 福井史料ネットワーク
 福島区公害患者と家族の会
 (財)水島地域環境再生財団
 (株)山崎シャーリング
 立命館大学文学部
 立命館大学国際平和ミュージアム

財政状況 (2006年4月1日～2007年3月31日)

● 収入 (単位:千円)

基本財産運用益等	1,790
会費	1,454
補助金等	43,935
寄付金	2,721
その他	2,429
積立金取崩	14,519
合計	66,851

● 支出 (単位:千円)

事業費	49,649
管理費	17,202
合計	66,851

役員・評議員/職員(50音順、敬称略)

2007年7月1日現在

理事長 森脇 君雄 (全国公害患者の会連合会代表委員、西淀川公害患者と家族の会会長)

専務理事 村松 昭夫 (弁護士)

理事 アグネスチャン (歌手、日本ユニセフ大使、教育学博士)

植田 和弘 (京都大学大学院教授)

金谷 邦夫 (うえに生協診療所所長、内科医師)

塩崎 賢明 (神戸大学教授・同大学院工学研究科教授)

高田 研 (都留文科大学教授)

新田 保次 (大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻教授)

早川 光俊 (弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事)

宮本 憲一 (大阪市立大学名誉教授、元滋賀大学学長)

森脇 昭夫 (特定非営利活動法人日本気候政策センター理事長、(財)地球環境戦略機関特別研究顧問、中央環境審議会臨時委員、名古屋大学名誉教授)

監事 長瀬 文雄 (全日本民主医療機関連合会事務局長)

福本 富男 (弁護士)

顧問 進士五十八 (東京農業大学教授)

評議員 太田 映知 (全国公害患者の会連合会事務局長、(財)水島地域環境再生財団専務理事・事務局長)

岡田 知弘 (京都大学大学院経済学研究科教授)

神吉紀世子 (京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻居住空間学講座助教授)

小池信太郎 (公害・地球環境問題懇談会代表幹事)

辰巳 致 (NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク理事長、デイサービスセンターあおぞら苑施設長)

壺井 貞志 (株式会社ハクアイテック代表取締役)

津留崎直美 (弁護士)

西村 弘 (大阪市立大学大学院経営学研究科教授)

橋本 孝子 (ルーテル大学大学院社会福祉学専攻、社会福祉士、介護支援専門員)

永野千代子 (西淀川公害患者と家族の会事務局長)

山崎 義郷 (大阪府職員労働組合中央地区評議会幹事)

松本 嘉子 (財団法人淀川勤労者厚生協会常務理事兼西淀病院事務長)

中島 晃 (弁護士、まちづくり市民会議事務局代表)

和久利正子 (大阪公害患者の会事務局長)

事務局 (2007年9月現在)

上田 敏幸 (総務)

林 美帆 (研究員)

鎗山善理子 (研究員)

大野みさ子 (会計)

藤江 徹 (研究員・事務局長)

水野 順子

小平 智子 (研究員)

矢羽田 薫 (研究員)

あおぞら財団の基金には、大気汚染によって健康や生命を奪われた患者たちが起こした西淀川公害裁判の和解金の一部があてられています。無断転／掲載を禁じます。